

【監督会議 冒頭あいさつ】

おはようございます。監督さん方をお話しする機会がありませんので、申し訳ありませんが、この場をお借りして、少し私の経験からお話しさせていただきます。

それは私が野球部員を指導するに当たって、大事にしてきたことです。もう20年以上も前のことなのでだいぶ古いことですが、先生方の参考になればと思い、お話しさせていただきます。

1つめは「教えること」と「考えさせること」です。自主性も、生徒に任せるもいいのですが、教えてやらなければいけないこともあります。教えることもいろいろありますが、その1つには野球に取り組む姿勢（道具を大切にすること）というのがあります。1つ例を話します。（愛用のキャッチャーミットを取り出して）皆さん道具の手入れについて話すことがあると思いますが、どのようにされていますか。私の場合は、缶に入った固形の保革油を指先で溶かしながら、溶けた油を指先で、まずミットの糸の縫い目に沿って塗っていきます。これは、雨の日にミットを使っても縫い目がほつれないための作業です。それが終わったら、今度は革紐の部分に、同じく指先で溶けた油を塗っていきます。これも防水の役割をしますが、もう一つの効果があります。新しいミットの革紐は固いですが、このままだと強い衝撃があった時に切れてしまいます。それを防ぐために革紐は柔軟にしておきます。また、革紐が柔軟だと結び目がしっかりするのでほどけにくくなります。

次に表面にも塗りますが、これは本当に薄く塗ります。つけすぎるとだんだん重くなっていきますし、ボールにも油がついて、滑って投げにくくなります。何万円もする大切な道具ですから、大切に使うよう指導してください。部員たちも、使って手入れをしているうちに、道具に対する愛着が湧いてくるでしょう。その姿勢は高校野球で終わらず、社会に出てからも習慣として身に付いていてくれれば最高です。

「教えること」でもう1つ。高校時代キャッチャーをやっていて、「配球が悪い！」と、よく叱られました。でも、いくら叱られても、わからないものはわからないので困っていると、当時の監督さん（現 秋田県軟式野球連盟会長の久保正樹さん）が、ある行動をとりました。それは、試合形式の練習をしている時でした。私がキャッチャーをしている後ろで監督さんが球審をしてくれた時のことです。何やら背中に当たるものがあるので、少ししゃがむ位置を変えましたが、それでも何か背中に当たります。不思議に思いながらその感触をよく考えていると、それは監督さんが後ろから、私に指を使って指示を出してくれているのでした。真っ直ぐ線を引いたり、丸を書いたりすることで、次に投手に投げさせるべき球種やコースを教えてくれているのでした。たった一度ではありましたが、三人のタイプの違う投手を相手に、監督さんが無言で教えてくれたことは、それ以降の試合に大いに役に立ちました。そのうちベンチの監督さんの気持ちも分かるようになり、失敗もありましたが、信頼も得られるようになりました。

次に考えさせることです。野球で考えることも沢山あるわけですが、その中で一番大事に思っていることは、「どんな作戦がこの場面では一番効果的か」、「どうしたら、今、やろうとしている作戦がうまく成功するか」、ということです。監督さんの指示通り選手は動こうとしますが、その前に選手自らもいろいろ考えることが大切です。つまりは、受け

身で動くのではなく、自ら考え動く姿勢が大切であり、それがあると、作戦は上手くいく確率が高まるうえ、試合がおもしろくなります。

偉そうにいろいろお話しさせていただきました。「釈迦に説法」で、どうもすみません。けれども何かのお役に立てればと思い、恥を忍んで話させていただきました。御清聴ありがとうございました。

【審判部との合同研修会 冒頭あいさつ】

本日は休日のお休みの所、また、雨の降る悪天候の中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。この研修は本来であれば実技もあり、監督会と審判部が年度初めにおいて、ルール等の共通理解を持ってシーズンを迎えるというのが趣旨であります。昨今の新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するという趣旨から、実技に関しては中止とさせていただきます。いつか機会を見て実施したいと思います。

さて、研修会に入る前に少しお話しさせてください。それは何かというと、高校野球の基本理念と、それに携わる指導者と審判員の関係についてです。高校野球は教育の一環であり、高校野球に於いては、指導者である監督も審判員も、野球を通じて、心身ともに健全な生徒を育成するという点では、同じ立場にあるということです。審判部の田口さんが部長の時の甲子園視察の際、日本高野連の方（多分、田名部さん）が秋田県の審判部の為に開いてくれた研修会で、「監督も審判員も立場は同じである。違う点はノックバットを持つか否かだけである」ということを話してくれました。いい話だなと思いました。

この話は、翌年の選手権秋田大会の開会式で、田口さんが選手に向けての激励の言葉の中で話してくれました。「大会を通じて、選手も指導者も審判員も、みんな頑張って成長してくれば幸いです」、と。

感動しました。同時に、「野球って本当にいいな」と感じました。高校野球に携われることに喜びを感じて、これからお互いに頑張っていきましょう。本日の研修会、どうかよろしく願いいたします。

2022年3月